

教員側も2学期制導入にあつての趣旨を十分に受け止め、これまで以上に、日々の授業を大切にしていると感じることがうかがえます。

2学期制導入に対する保護者の願いと、教員の授業に取り組む姿勢が一致し、2学期制が力強く歩み始めていると考えられます。

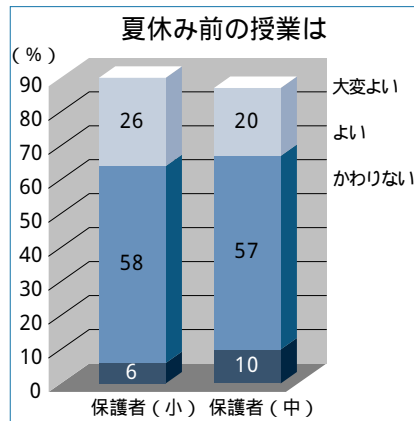
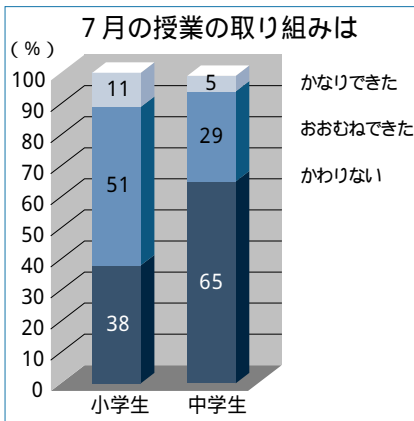


2学期制は、「行事の見直しなどによる授業時間の増加で、より充実した学習や活動が可能となる」こともねらいの一つです。

次の設問では、この点特に「7月中の授業」について、保護者と子どもとの両者に質問しました。

保護者に対する設問「夏休みに入る直前までの授業についてどう思いますか」では、小・中学校の保護者とも約80%の方が「大変よい・よい」という回答でした。

3学期制のときには、短縮授業や式などで授業がカットされることが多かったことを考えると、2学期制の良さが受け入れられていると考えられます。



子どもに対する設問「これまでと比べて7月の時期に、授業にじっくりと取り組むことができたか」では、小学生が「かなりできた」「おおむねできた」合わせて62%、中学生が「かなりできた」「おおむねできた」合わせて34%、「かわりない」が65%という回答でした。



小学生は、この時期の個別懇談会が夏休み中に移動して、短縮授業がほとんどなくなり、授業が今まで以上にできたという実感からの回答であると考えられます。中学生は、6月下旬からの中間テスト終了後、夏の大会に向けての部活動の練習が中心となり、これまでと生活があまり変わらなかったことが、この回答に表れていると考えられます。

2学期制導入により、7月の授業時間が今まで以上に確保されるなかで、特に小学生の子どもたちは、じっくり学習に取り組むことができたと思われる。



2学期制導入を契機に、それぞれの学校では、これまでの子どもへの評価のあり方を見直し、子どもの学習の様子や変化をより確実にとらえ、よりきめ細かな支援ができるように努力をしてみました。

次の設問は、その取り組みの様子を教員に聞いたものです。設問「7月の時期に、以前と比べてゆとり感が生まれ、じっくり子どもに寄り添った指導をする時間に費やすことができましたか」に対して、「かなりできた」「おおむねできた」合わせて51%でした。

「できた」という理由として、
 ・今まで夏休み前にやっていた成績処理が夏休み中にできるようになり、子どもとふれ合う時間が増えた。
 ・授業をあわせて行う必要がなくなり、教科指導を充実することができた。
 などが多く挙げられ、半数以上の教師が子どもに寄り添いながら、子どもへの支援を心がけていることがうかがえます。